

肥前陶器窯跡

～国指定史跡～

■肥前陶器窯跡（ひぜんとうきかまあと）

唐津市の北波多の岸岳山麓には、皿屋窯、皿屋上窯、帆柱窯、飯洞甕上窯・飯洞甕下窯の5基の窯跡が所在する。これら窯跡は釉薬・成形技法・窯詰め手法等の製品や窯構造の特徴から、16世紀末頃のもので本窯跡でもごく初期のものと考えられる。また、唐津市街地には御茶わん窯跡があり、焼成室7室以上からなる連房式登窯の構造になっている。江戸中期から後期まで唐津藩の御用窯として使用されていたもので、その後大正年間まで中里一族により使用されていた。御用窯の製品は「献上唐津」と称され、茶陶のほか多様な器種がある。

武雄市の北部には、内田系と黒牟田系の窯跡がある。内田系の小峠窯跡からは、刷毛目、三島手などの装飾がみられる陶器と、染付と青磁の磁器が出土しており、17世紀前半頃の窯跡と推定される。同じく内田系の大谷窯跡からは、刷毛目、二彩の陶器が出土しており、17世紀後半の窯跡と推定される。黒牟田系の鑄谷窯跡は、絵唐津の装飾をもつ陶器が出土していることから、開窯年代は16世紀末前後と推定される。土師場物原山からは、黒釉や青釉を施した土瓶やすり鉢等が多数出土しており、年代は江戸中から後期とみられる。

多久盆地の西方、牛津川上流部には唐人古場窯跡があり、多久家史料によると秀吉の朝鮮出兵の折に連れて来られた金ヶ江三兵衛が最初に築いた窯とされる。操業時期は、16世紀から17世紀初頭頃と考えられる。焼成室間の段差がない窯構造や磁器製作の技法を思わせる製品の特徴は朝鮮半島のものに近い。

昭和15年2月10日指定
唐津市、武雄市、多久市
生産に関わる遺跡

分野 歴史

地域 北波多

◎地図・写真・統計資料など



御茶わん窯跡



肥前陶器窯跡

（『佐賀県の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html